

5月の田植え後1ヶ月が過ぎ、新潟では梅雨入り前の晴天がつづいたことから山間部では水不足で田植えもできなかった水田もあったようですが、当農園では用水が整備されていたこともあり、適正な水管理ができたことで、苗丈が30~35cm、茎数も18~23本程に生育したことから、**中干し管理**を始めました。

中干しを行うことで、過剰な分けつを抑え有効茎数を確保し、土壌中に酸素を送り、水田から湧く硫化水素等の有害なガスの発生を抑え、健全な根の生育を促進することで、収穫時の稲の倒伏を抑える効果があることからこの時期の重要な作業です。しかし中干しを2週間ほどつづけることで、圃場の表面が細かいひび割れができるほど乾燥することで、カエルやドジョウ等の水性動物には、厳しい環境を作ってしまうことが頭の痛いところです。

稲丈と茎数の観察状況(6/23)

水性動物(オタマジャクシ)の観察



中干し効果を上げるための江たて(溝切り作業)



稲作りを悩ます雑草

当農園圃場の雑草の内、一番多く発生するのは**ノビエ**(タイヌビエ、ケイヌビエ、イヌビエの総称)で、この雑草は1年草で水田の最も代表的な強害雑草です。種子で繁殖し、田植え後1週間ほどで一斉に発芽し、丈は40~90cm程に生長し秋に多くの種子を付けるため、昔から農家を悩ませてきた雑草です。

10~15cmに生長したノビエ



畔道の草刈作業も9月の収穫まで6~7回つづきます



次に多く見られるのは、**ホタルイ**でこれも発生量が多く強害雑草で、越冬株からと種子から発生し茎が多く分けつし大きな株となり、丈は20~60cm程に生長し夏以降に茎の先に種子を付けます。当農園では除草剤の使用を少量1回のみとしているため、人力による除草作業が多くなります。

20cm程になったホタルイ



発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条 755

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

E-mail: ikeda@kanta.jp

ホームページ URL: <http://www.kanta.jp>

畔道の管理には一切除草剤を使わないため、4種類の草刈機を使い分け汗を流しています。